

令和元年度 農福連携推進北陸ブロックセミナーを開催

1月21日（火）、北陸農政局（金沢広坂合同庁舎）1階共用大会議室において、「農福連携推進北陸ブロックセミナー」を開催しました。

このセミナーは、農福連携の取組が自主的・自立的に行われることを目指し、農業と福祉分野におけるさまざまな課題を解決しながら、先進的に取り組んでいる事例紹介や情報交換を行う目的として、農業者16名、福祉関係者9名等の関係者約90名が参加しました。

森澤北陸農政局長の挨拶に続き、福井県立大学 看護福祉学部社会福祉学科講師 相馬大祐氏による基調講演が行われ、社会福祉側と農業側それぞれの解決困難な課題に新しいアプローチや価値観を生み出す農福連携の大切さや、双方を仲介する場、機関、人材、互いに見える関係の中でノウハウを共有できる場づくりの重要性について説明がありました。最後に農福連携は社会福祉側と農業側がお互いの強みを生かすことが連携のキープポイントであり、それは新たな価値を生み出し、地域の持続性に貢献できるのではないかと締めくくられました。



福井県立大学 そうまだいすけ
相馬大祐 氏

続いて、「農福女子による農福連携の広がり」と題して、農福連携で活躍する農福女子3名による事例発表が行われました。

株式会社笠間農園 取締役 笠間令子氏から、こまつな・ほうれんそうの収穫、えだまめの選別・袋詰めやこまつなをマフィンに加工するなどの作業において、障がい者がイキイキと活躍し、現場ではヒーローになっていると紹介されました。



株式会社笠間農園 かさま れいこ
笠間令子 氏

株式会社愛昂 専務取締役 相良景子氏からは、にんにく・タケノコの収穫、水稲栽培、ハウス内の片づけ等に挑戦している障がい者や6次産業化（ブランディング）への取組み、販売戦略、メンマ・ドーナツの加工について紹介がありました。



株式会社愛昂 あいすまる 相良景子氏 さがらけいこ

農園CuRA! 代表 真保若葉氏からは、薬用植物の栽培からハーブティーやジャムの加工・販売まで、全ての作業に障がい者が関わることで、目に見える成果が更なるやる気に繋がり、自主性も生まれ好循環を生み出していることや、販路拡大やノウフクJASの取得を目指しているなど今後の展開方向について紹介がありました。



農園 CuRA! しんぼわかば 真保若葉氏

(参考) 「農福連携推進北陸ブロックセミナー」の概要

- 1 日時：令和2年1月21日（火曜日）13時30分～16時30分
- 2 場所：金沢広坂合同庁舎 1階 共用大会議室
- 3 プログラム
 - (1) 基調講演
 - ・「農福を知って広がる笑顔」
講師：福井県立大学看護福祉学部 講師 相馬 大祐 氏
 - (2) 事例発表「農福女子による農福連携の広がり」
 - ・「河北潟干拓地における こまつな生産とマッチング」
発表者：株式会社笠間農園 取締役 笠間 令子 氏
 - ・「地域をつなげる農福連携×ノウフク加工品」
発表者：株式会社愛昂 専務取締役 相良 景子 氏
農園 CuRA! 代表 真保 若葉 氏
 - (3) 情報提供
 - ・「国の施策等紹介」 農林水産省農村振興局（都市農村交流課）
 - ・「ノウフクJASについて」 一般社団法人日本基金